

## 第2章 計画地の現状

### 1. 自然的環境

#### (1) 所在地

下野薬師寺跡は栃木県の南部、下野市に所在する。下野市は平成18年(2006)1月、河内郡南河内町・下都賀郡石橋町・同郡国分寺町の3町が合併して誕生したが、下野薬師寺跡はこのうち南河内町(大字薬師寺字寺山地内)に位置する。現在の住所表示は下野市薬師寺である。



図2 史跡位置図

#### (2) 地形・地質

下野薬師寺跡は姿川と田川に挟まれた宝木台地上に位置する。宝木台地は、宇都宮市北部から小山市・結城方面へと続く県南部で最も広い面積を占める台地で、旧南河内町付近で西谷田用水が流れる浅い浸食谷によって西側の祇園原台地と東側の薬師寺台地の2列に分岐する。下野薬師寺跡は薬師寺台地上に所在し、西側は西谷田用水による浅い浸食谷、東側は田川低地に接している。下野薬師寺跡が位置する台地は砂礫層の上に堆積した関東ローム層が分布し、東西の低地は砂礫層である。

### (3) 気候

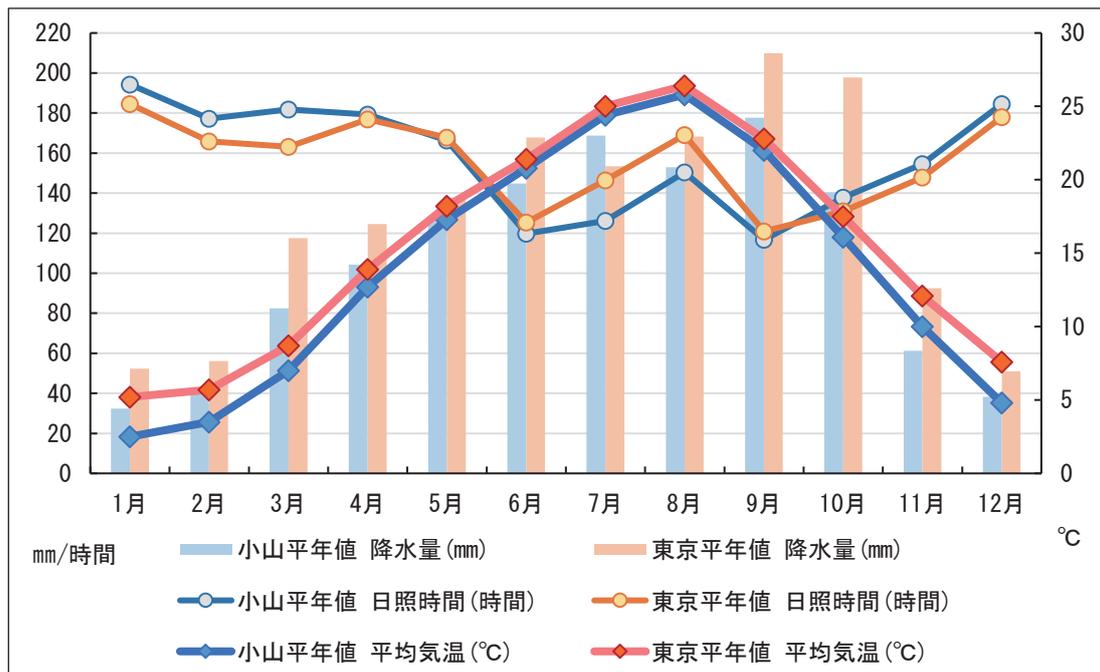


図3 小山・東京の月別降水量・日照時間・気温の平均値  
(下野市 令和2年(2020)『下野市文化財保存活用地域計画』p.20より転載)

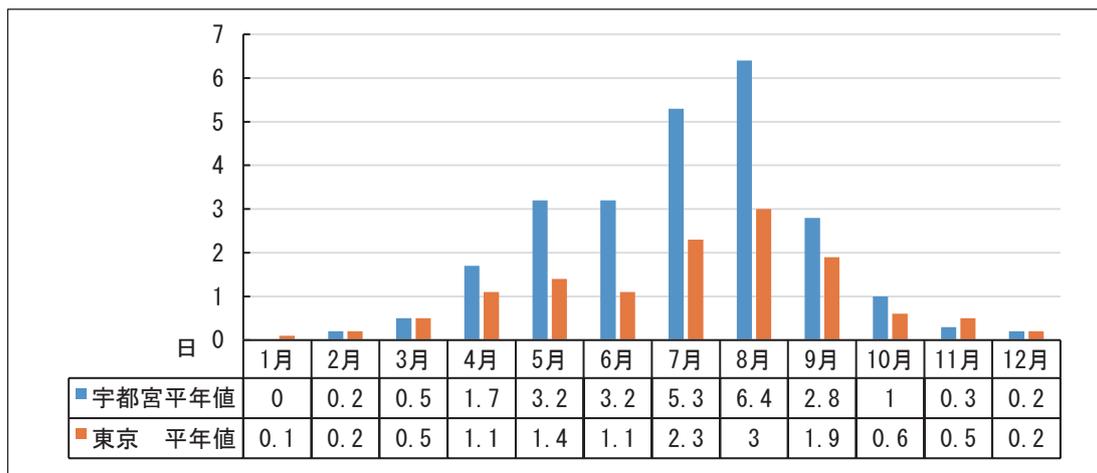


図4 宇都宮・東京の雷日数の平均値  
(下野市 令和2年(2020)『下野市文化財保存活用地域計画』p.20より転載)

### (4) 植生

下野薬師寺跡付近については、下野市内の関東ローム層が堆積した台地上にはかつてカシ・シイ群落（いわゆる里山）が多く広がっていたが、現在は神社や寺院の境内にわずかに残っている程度である。指定地周辺を東西に横断的にみると、水田雑草群落—畑雑草群落—市街地—（スギ・ヒノキ・サワラ植林）—畑雑草群落—水田雑草群落となっており、指定地周辺の植生はそのほとんどが人為的な介入を受けていることがわかる。

また、下野薬師寺跡の南東に位置する田中地区では、県内では絶滅したとされていたサクラソウ科の多年草「トウサワトラノオ」が群生していることが確認された。圃場整備工事によって地下で休眠していた種子が発芽したと考えられており、保全を前提に、県と連

携しながら具体的手法などを検討している。

史跡指定地内のふるさと歴史の広場として整備公開されている地区は、約 100 本の紅梅と白梅が植樹されている。また、現在の薬師寺境内地にはケヤキの大木やシラカシ等が点在し、ふるさと歴史の広場と境内との境界付近は竹林となっている。その他、畑地にはゴボウ、サトイモ、ネギ等が栽培されている。指定地内には、所々に藪化した雑木林が分布しており、これはかつて薪炭材や農地の肥料となる落葉採取林として利用されていたものが、放置されて藪化したものと見られる。

## 2. 歴史的環境

---

### ①創建期（7世紀末）

下野薬師寺の創建については、『東大寺要録』（1106）をはじめとした9世紀から14世紀の複数の文献に記録が残されている。創建年代は文献により異なるが、天智9年（670）から大宝3年（703）の間と伝えられている。

発掘調査では、最古の瓦として川原寺系の軒先瓦が出土しており、文様の特徴から川原寺創建（670年頃）よりやや遅れた頃の型式と推定され、7世紀末～8世紀初頭頃の創建と考えられる。創建の理由については、大宝律令の選定など当時の中央政界で活躍した下毛野朝臣古麻呂を筆頭とする下毛野一族の氏寺として建立されたとする説や、当初から官寺として建立されたとする説がある。

### ②奈良時代

創建時の性格については、氏寺とする説があるものの、『正倉院文書』の天平5年（733）の「右京計帳」と天平10年（738）の「駿河国正税帳」には下野薬師寺造寺司の名が見える。このことから遅くとも天平年間までには下野薬師寺は官寺化されたと考えられる。天平宝字5年（761）には、淳仁天皇の勅願により戒壇が設けられ、東海道足柄峠・東山道碓氷峠以东の諸国は下野薬師寺を、西海道の諸国は筑紫観世音寺を戒壇とすることが定められた。これにより、東大寺、下野薬師寺、筑紫観世音寺が三戒壇として、僧侶になるための戒律を伝授する儀式を行う場とされた。発掘調査の結果では、8世紀の前半に大規模な造営促進と改修が行われ、伽藍が整えられたことが判明した。これらは、養老4年（720）における蝦夷の大規模な反乱以後の律令政府による地方政策重視の一環と考えられる。

### ③平安時代

平安時代に入ると、東国における天台宗の勢力が増大した。弘仁13年（822）に延暦寺に戒壇が設置されたことから、延暦寺の受戒者が増加した。その反面、下野薬師寺の受戒者が減少し、その必要性が徐々に失われていった。しかし、『続日本後紀』嘉祥元年（848）11月の条には、下野薬師寺は中央の七大寺（東大寺、大安寺、西大寺、薬師寺、興福寺、法隆寺、元興寺）のごとく壮大な寺であり、資財も豊富であったことが記されており、9世紀の中頃まで大きな勢力を保っていたことがうかがえる。発掘調査の結果では、この頃、伽藍中枢部に存在した塔（創建）が焼失し、寺院地東側に再建されたことが確認されている。

寛治6年（1092）に下野薬師寺の僧慶順が東大寺に送った文書では、伽藍が倒壊し荒廃

甚だしいことが記されており、9世紀には勢力を保っていた下野薬師寺も10世紀から11世紀にかけて次第に力を失い衰退していったことがうかがえる。

#### ④鎌倉時代

鎌倉に新生の武家政権を樹立した源頼朝は、鎌倉に鶴岡八幡宮をはじめとする寺社の建立を行うとともに、廃絶した関東の諸寺院の再興を進めた。こうした情勢のなか、下野薬師寺は幕府の庇護のもとに宗教活動が行われるようになった。また、平安時代後期以来、衰退していた戒律の復興運動が起こり、諸所に設けられた戒場で受戒が行われ多くの律学僧を輩出した。

下野薬師寺では、慈猛上人により戒壇が再興され、廃絶していた戒法の復活が図られた。再興した下野薬師寺戒壇では僧侶のみではなく、小山氏の支族薬師寺氏の当主をはじめとする俗人への受戒も行われ、多くの僧俗が集まる場所となった。また、慈猛上人を通して関東の諸寺院と交流を持ち、独自のネットワークを構築するとともに武家社会の支援を獲得していった。こうして、下野薬師寺は再び往時の隆盛を取り戻した。

#### ⑤室町時代～戦国時代

鎌倉幕府崩壊後の政権の京都移転と新生幕府の禅宗に対する重用は、戒律復興運動を機に隆盛していた律学の衰退を招き、下野薬師寺戒壇も再びその意義を失っていった。一方で室町幕府を開設した足利尊氏・直義は、夢窓疎石の勧めを受けて、国ごとに安国寺と利生塔の設置を行うことを計画した。こうした動向の中で下野薬師寺も薬師寺の寺号を安国寺と改め、幕府から寺領寄進を受けその経済的な保護のもとに寺内再建を進めたと考えられる。

室町幕府の力が衰え戦国の時代になると下野薬師寺も戦乱に巻き込まれ、元亀元年(1570)後北条氏の下妻城攻撃の際、兵火により全焼したと伝えられている。

#### ⑥江戸時代

焼失後の下野薬師寺は、その由緒に連なる安国寺と龍興寺がそれぞれ独立して再建を進めていった。古代以来の寺域内に境内を置く安国寺は、当初は結城氏の、その後は伊奈備前守中治の庇護を受けた。江戸時代になって秋田佐竹領となってからは10石の寺領を受けるとともに、佐竹家家臣の渋江内膳の奉加により戒壇と薬師堂が造営された。

#### ⑦近代以降

下野薬師寺跡は、大正10年(1921)3月3日に国の史跡に指定された。昭和41年(1966)からは栃木県教育委員会による発掘調査が開始され、古代における寺院の状況が少しずつ明らかになってきた。発掘調査はその後、南河内町、合併後の下野市に引き継がれ、平成30年度(2018)まで第41次にわたって行われた。平成30年(2018)までに伽藍地の一部である西回廊と再建塔跡及び両地の周辺が整備され、「史跡下野薬師寺跡ふるさと歴史の広場」として活用されている。

また平成30年(2018)7月、「平成大修理」が完了した安国寺は、679年ぶりに寺名を「薬師寺」に変更し、下野薬師寺跡とともに広く市民等への周知を図っている。

### 3. 社会的環境

#### (1) 人口

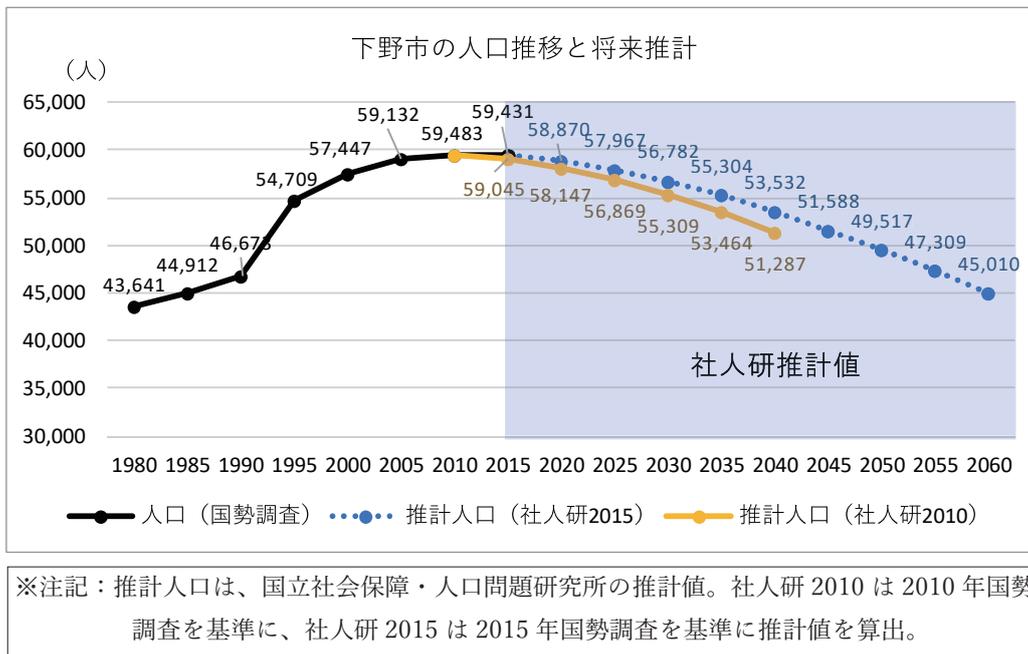


図5 下野市の人口推移と将来推計値  
(下野市 令和2年(2020)『下野市人口ビジョン』p.2より転載)

#### (2) 産業

##### ① 農業

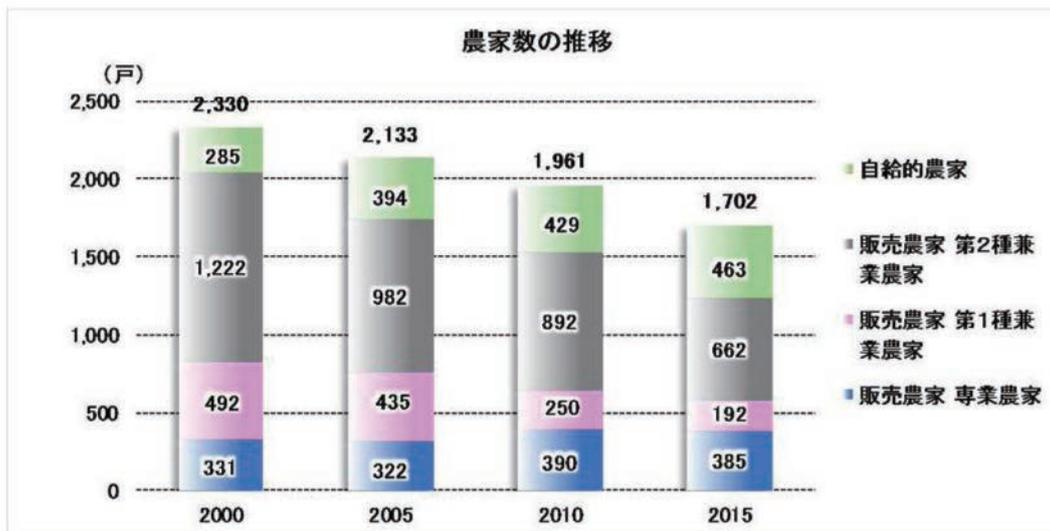


図6 農家数の推移  
(下野市 令和2年(2020)『下野市人口ビジョン』p.17より転載)

②工業



製造品出荷額等構成比 (平成30年(2018))

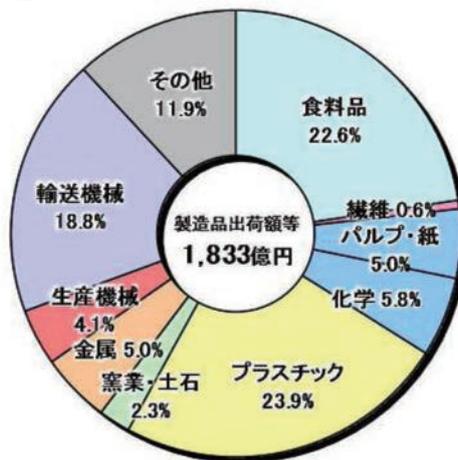
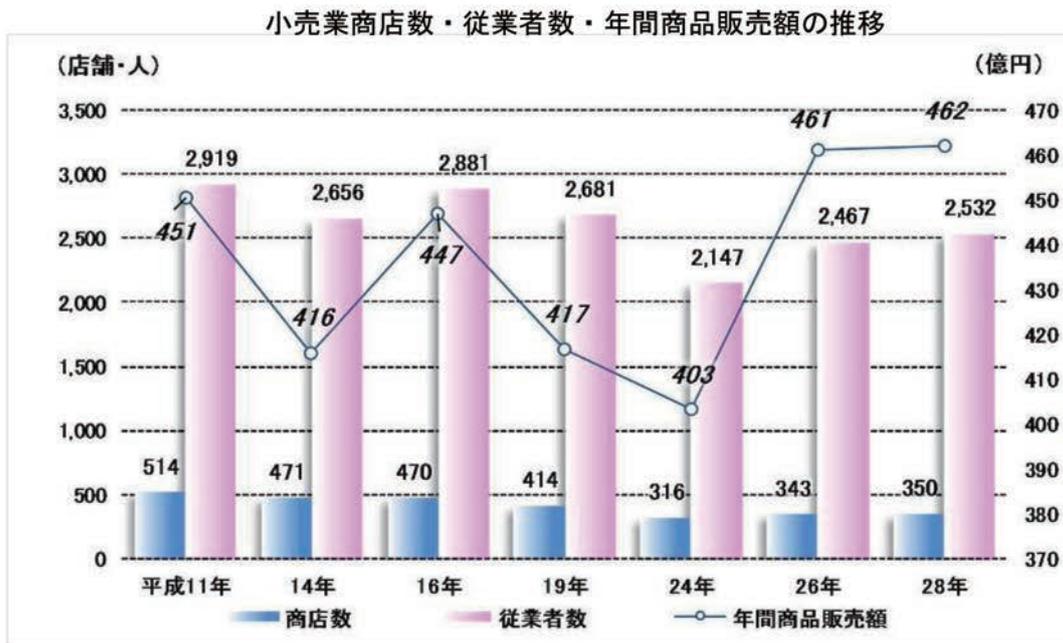


図7 事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移／製造品出荷額等構成比  
(下野市 令和2年(2020)『下野市人口ビジョン』p.18より転載)

③商業



商店数構成比 (平成28年(2016))

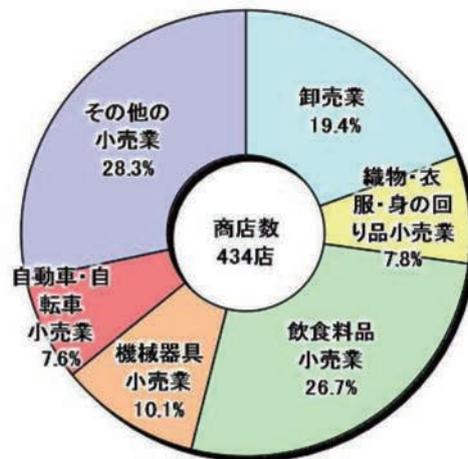


図8 小売業商店数・従業員数・年間商品販売額の推移／商店数構成比  
(下野市 令和2年(2020)『下野市人口ビジョン』p.19より転載)

#### ④観光

平成 23 年（2011）に「道の駅しもつけ」が開業し、観光入込客数が平成 24 年（2012）には 300 万人を超えるなど、下野市の観光資源の中心として観光入込客数を支えてきたが、平成 29 年（2017）は道の駅しもつけのオープン以降最も少ない観光入込客数となっている。

しかし、市内で開催されるイベントには、「天平の花まつり」「天平の芋煮会」「グリムの森イルミネーション」などがあり、それぞれ来場者数は増加している状況にある。

また、平成 30 年（2018）年 4 月には天平の丘公園内の民俗資料館「夜明け前」をリノベーションし、「古民家カフェ」としてリニューアルオープンしたことで、同公園の来場者が増えている。

今後も、従来の観光資源のブラッシュアップや観光資源のネットワーク化を図ることが重要な戦略となる。

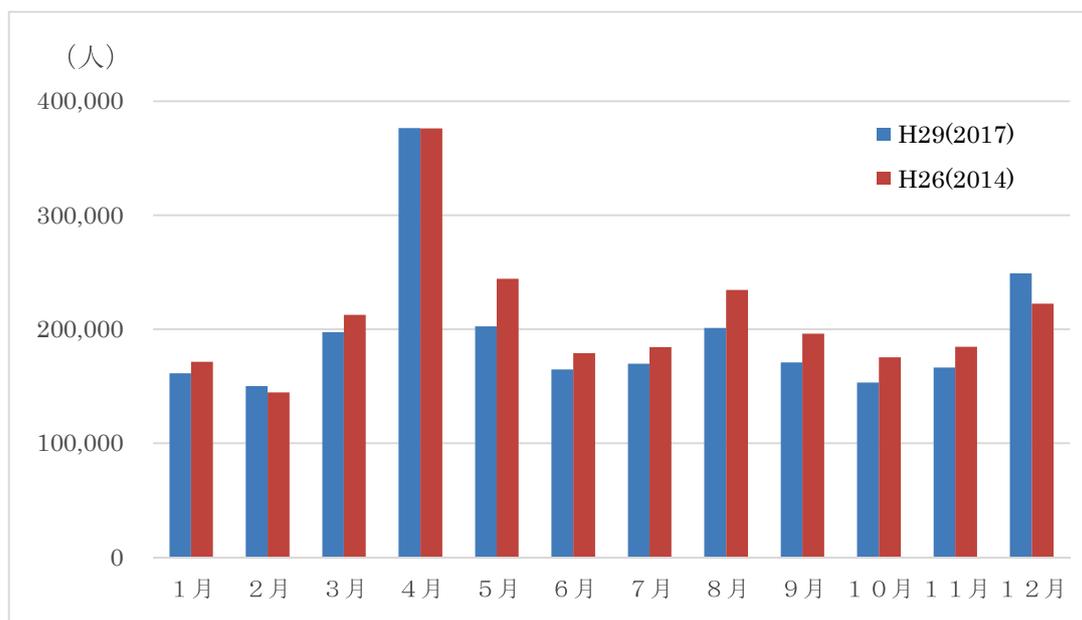


図 9 下野市の月別観光入込客数（平成 26 年（2014）・平成 29 年（2017））  
（下野市 平成 31 年（2019）『第二次下野市観光振興計画』p. 9 より転載）

#### （3）交通

最寄り駅は史跡の南西約 2 km に位置する J R 自治医大駅で、宇都宮駅まで約 15 分、上野駅まで約 1 時間 20 分となっている。主要な道路は史跡指定地のほぼ中央を一般県道結城石橋線（県道 146 号）が南北に通っており、史跡から約 500m 南には一般県道笹原二宮線（県道 310 号）が、さらに南下して約 1.2km で小山下野線（県道 366 号）と交差している。

関東圏から下野薬師寺跡までの主要なアクセス道路は、首都圏中央連絡自動車道（国道 468 号、通称：圏央道）、国道 4 号、新 4 号国道であり、約 2 時間の距離にある。宇都宮・下野薬師寺跡間は、国道 4 号経由で約 40 分の位置にある。

最寄り駅の J R 自治医大駅から史跡までは、車で約 10 分、自転車約 15 分、徒歩で約 30 分の距離である。駐車場は、下野薬師寺歴史館に整備されている。また、市内ではダイヤモンドバス「おでかけ号」が午前 8 時から午後 5 時まで運行し、月曜日から土曜日まで利用できるほか、レンタサイクル貸出場が小金井駅、自治医大駅、石橋駅に設置されている。

(4) 地域資源

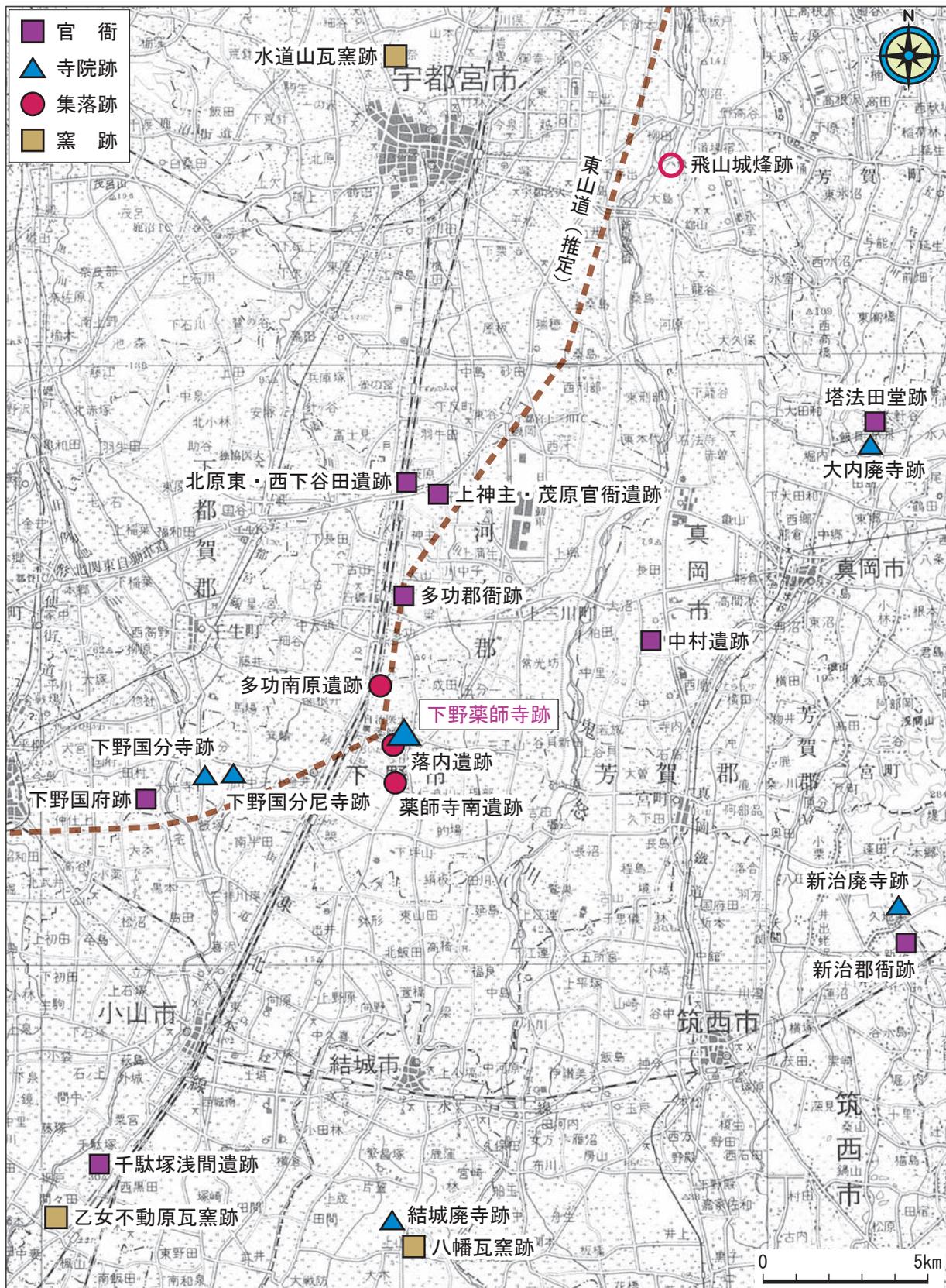


図 10 官衙・寺院等の遺跡分布図

(下野市 平成 23 年 (2011) 『第 2 期保存管理計画書』 p.20 を調整)

